

* 1月のコメント賞は本間重満会員です。

卓 話： 「日韓交流に想いを寄せて・・・」 G S E 研修生 佐藤亜希子様



この度は、講演依頼を頂きまして大変ありがとうございます。また皆様のお陰で日韓交流職業研修プログラムに参加させて頂きました事、この場をお借りして心からお礼申し上げます。こんな夢のある、有意義なプログラムを企画され継続実施されているとのことですが、今年度ちょうど100周年という記念すべき年であったとの事。本当におめでとうございます。

思い返しますと、とても不思議な事に全く知らない土地で初めてお会いするはずの方々も、なぜか懐かしく感じられ何処へ行っても温かい気持ちに包まれました。これは“友あり遠方より来る。又楽しからずや”の儒教の精神が心の底に流れているからではないでしょうか？初日のパーティー後あまり寒かったので言葉の解らない同志、G S Eメンバー数人で、横真一文字の団子状になって腕を組み、しばらく歩きました。実はその温もりから、口では表すことのない何かを、はっきりと感じ取る事が出来たのです。こんな感動のスタートを切った28日間、私には様々な疑問が沸き起こっていました。

“人と人との交わりとはなにか？” “日本とはどういう国なのか？” “文化に国境はあるのか？” “世界平和とはなにか？” “平和の為に、恨（ハン）の国にやって来て、私には一体何が出来るのか？” “私とは何か？” e t c・・・帰りの飛行機ではもちろん重量オーバーでした。原因はお土産だけでなく、食事の美味しさとクラブの方々からのたっぷり頂いた愛情分です。そしてグローバル社会と言われる今日。どうせ生きるなら時代に見合うより大きな心を持ちたいという意欲も目一杯頂きました。

また、独立記念館等、様々な施設の数々、初めて知った併合、非併合の歴史の深さと重みの中には、目を覆いたくなるような悲しいシーンも飛び込んできました。“許す事はあっても忘れる事なかれ”戦争の傷跡の大きさを物語る一文です。そんな互いの過去を労るように、ロータリークラブの会合では、必ず日本の国歌“君が代斉唱”を準備して下さいました。（かつて、これほど自分が日本人であることを意識した日があったのでしょうか？）そしてまた、会合時には、日本の民族衣装である着物を着用しましたホスト国の方々も大変喜んで下さいました。序でにホームステイ先の子供達に着付けして差し上げると、家族中は大喜び！お返しに大切なチマチョゴリを箆笥の奥から引っ張り出してきて、大騒ぎしながら私にも着せて下さるなど、静かな一室が途端に大撮影会場に早変わりする有様でした・・・お互いに衣服の形は違えども美しい物に対する感動の心には全く違いがなく、言葉すら必要ないという事を再認識した瞬間でした。さらにパーティーでは君が代のお礼を言いますと、即、返ってきたガバナーのお言葉がまた感動的でした。私の目を優しく見つめて淡々とおっしゃいました。

「全てはロータリークラブのプログラムによって行われた物にすぎません。東アジアにおいても、日

韓は切っても切れない関係にあり、このプログラムを通して世界の平和を推し進め両国の民衆レベルでの交流を心から願っています。」

全体を通じて感じた事は、人間は過去の経緯がどうであれ、今全ての事象を前向きに真摯に受け止めてこの地球という一つの星の中で未来に向かって、お互いを活かし、活かされあっていく事が大切であるという事でした。また人は、言葉や風習、アイデンティティー違いはあっても、この星の中で、全て生きとしいけるものをシンクロしあいながら、今正に活かされている共同体であるのではないのでしょうか？だから見つめ合っただけで感じ合い、わかり合えるのではないかと思いました。今後この気持ちを決して忘れることなく、心の拠り所として、糧として私の職業である、癒しを追求した治療道を通じて大切に育み伝え続けていく事を念願しています。

異国の地で生活してみて、改めて私の生まれた国“日本”について、見つめ直す機会を頂きました。そしておぼろげながら“温・故・知・新”の意味をも感じさせて頂きました。

最後になりましたが、ロータリークラブ100年という一つの節目を迎えられ、世界平和の為、さらなるご発展を心からお祈り申し上げます。関係者の皆様、本当に 本当に 有難うございました。

会 員 の 声： 第18代会長 山本 賢

私は2003-04年度の会長をさせていただきました。この時、私自身の会長職としての命題は「ニュートラル思考」でいこうということでした。

時代背景として、「失われた10年」と言われて日本全体が自身を喪失し、デフレの中に埋没しながらなかなか未来への展望がまだ開けていなかった時です。日本全体は'80年代の繁栄による自信（過信？）から「プラス思考」全盛を経て、その反省期を迎えていたとも考えられますが、やはりボトルに半分中身が入っている時に「まだ半分もある」と肯定的に眺め、高い目標を維持し続けるプラス思考と「もう半分しかない」と考えるマイナス思考以外に、力まずに何の評価もせずに「半分ある」とニュートラルに見る見方もあると考えられるわけです。

例えば、登山というのは登るだけでなく、無事に下山することも大事です。美しき下山、実り多き下山といいますが、そういう人生の峠道にたたずみ、ゆっくりと成熟した豊かな下降をどう人間的に充実してやっていけるかを、考えなければならないと思います。

無理をしてプラス思考でモチベーションを高め続けることには限界があると考えた時に、物事、現状をありのままに認めて、そこで希望や感情を素直に表現することが真実の人間ではないかと考えたわけです。

私自身は今でもニュートラル思考で生きていこうと考えています。私の考えが皆様の共感を得られたかどうかは明らかではありませんが、それまでの私は狭い世界で生きてきましたが、ロータリーで異業種の人達と交流できたことは良い経験となり、今日の私の考え方の根幹となりました。

最後になりましたが、会長職で様々な経験、体験をし、次期会長へ無事リレーができましたので、本当によかったと思っています。

あらためて皆様に感謝しています。